

学校と地域、家庭が連携して子どもたちの夢づくりを応援しようと、昨年、生徒指導総合連携推進委員会（庄司和明会長）が発足し、村内の小・中・高校生を対象に「夢」に関する作文を募集しました。その中から最優秀賞に選ばれた4作品を順次紹介します。

服のデザイナー

白石小学校3年 高橋 凧沙



わたしは、服のデザイナーという仕事をやりたいです。なぜかというと、わたしは、かわいい服がすきだからです。みんながよるこぶようなステキな服を作りたいです。今も、わたしは、自由のように自分がデザインした服を書いています。

私が作りたい服のイメージは、着ている人もうれしくなる服というものです。たとえば冬だったら、そでやスカートのすそにひらひらのレースをつけて、えりには、白い皮でできたふわふわであたたかいえりまきとリボンをつけます。それでもスカートも長くして、寒い北風が入らないようにします。毛皮の服なので、とてもあったかいです。だから、見ている人もあったかくなります。夏には、右と左のこしに赤いリボンのついた、チェックのワンピースを作りたいです。この服は、きるととてもすずしいです。見ている人もすずしく

くなります。そして、どの服もとてもかわいい服なので、その服を着ている人がいるだけでまわりが明るくなったり、やさしい気持ちになったりするのです。

わたしは、小さい子どもがすきなで、小さい子にもすくかわい服を作りたいです。大きいお花や小さいお花をたくさんつけた服を作りたいです。そして、ファッションショーを開きたいです。ファッションモデルの人たちに、わたしが作った服を着てもらいたいです。たくさんライトの中で、私が作ったいろんな服をしようかいできたらうれしいです。さい後に、わたしもこしにリボンのついたチェックのワンピースを着て、子どもたちのモデルといっしょにファッションショーに出て、来てくれたお客さんにお礼を言いたいです。

わたしは、飯舘村にあう服も作りたいです。飯舘村の春はピンクにそまるので、ピンクのぬので服を作ります。服のむねのところに四つ葉のクローバーをつけて、飯舘にさくいろんな色で作ります。そして、えりの部分にお花のネックレスをつけて、イチヨウの葉っぱや、すずらんや、チューリップをそでやむねの部分にかざった服を作ります。飯舘村の美しいしぜんを大事にしてもらいたいとねがいがながら、美しい服を作りたいです。そして、さい後には、飯舘村にお店を作って、いろんなお客さんに来てもらいたいです。そして、いつかゆう名な服屋さんになって、みんながわたしの服を着たり見たりすると、笑顔になる世界にしたいです。このゆめにむかって、がんばっていきます。

私の夢

白石小学校6年 佐藤 亮子



私の将来の夢は、幼稚園の先生になることです。なりたい理由は二つあります。一つ目は、幼稚園の子どもが大好きで、一緒にあそんであげることが好きだからです。二つ目は、私が幼稚園の時に会った先生のようになりたいと思ったからです。私が習った幼稚園の先生は、いつも優しく、時には厳しい先生で、にっこり笑った顔がとても素敵で先生でした。私も、そんな笑顔の絶えない先生になりたいと思います。

最近の世の中は、子どもが親を殺したり、自分の家をほんのささいな事で燃やしたりしてしまう信じられない事件が起きています。私が先生に教えられてきたように、私も子どもたちには、小さい子どものうちから、だめな事はだめだと教えてあげたいと思います。

また、最近の子どもたちは天気の良い日でも外で遊ぶ、家の中でゲームをしてばかりいると言われているので、私もすすんで外で元気よく遊び、自分からお手本を示してあげようと思っています。昔からのことわざでもあるように「子どもはカゼの子」という意味を、子どもたちにも教えてあげようと思います。

でも、私が幼稚園の先生になるためにはがんばらなくてはならないこともたくさんあります。その中でも私はピアノが苦手で、上手にひけないので、これからどんどんピアノの練習をして、子どもたちにピアノをひいて聞かせてあげたり、私のばんそうで歌を歌わせてあげることが出来たらいいなと思います。夢は努力をしないと簡単にはかなわないと思うので、できることから自分なりにがんばっていこうと思っています。

もし、私が幼稚園の先生になれたら、子どもたちに話してあげたいことがあります。それは、私が考えた「あいうえおのできる子ども」です。

「あ」は、あいさつができる元気な子

「い」は、いつもにっこり元気な子

「う」は、うそをつかない元気な子

「え」は、笑顔でお返事元気な子

「お」は、思いやりを持つ元気な子

私は、幼稚園の先生のめんきよを取ったら、飯舘村の幼稚園で先生をしたいです。人数は他の地域より少ないかもしれませんが、私が育った大好きな飯舘村なので、この村で子ども達をのびのびと元気に「あいうえおのできる子ども」を育てていきたいと思っています。

夢を実現できるように、私も「あいうえおのできる子ども」としてがんばっていききたいと思っています。